

平成28年1月12日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料6

生活科について

生活科設置の経緯

- 昭和42年 低学年社会や低学年理科の改善の必要性について指摘→説明中心の学習から経験を豊富に自ら働きかける学習に(教育課程審議会答申)
- 昭和43年 学習指導要領改訂
- 昭和46年 生活及び学習の基本的な態度・能力の育成のために、総合的な教育を(中央教育審議会答申)
- 昭和50年 理科及び社会の内容を中心として新しい教科を(教課審答申)
- 昭和51年 具体的かつ総合的な活動を通して知識・技能の習得や態度・習慣の育成を図るために、合科的な指導を推進(教課審答申)
- 昭和52年 学習指導要領改訂
- 昭和58年 既存の教科の再構成(中教審審議経過)
- 昭和59年 小学校低学年の教育に関する調査研究協力者会議
- 昭和61年 教科の総合化を進め、児童の具体的な活動・体験を通じて総合的に指導する(教課審答申)
- 昭和61年 生活科設置の中間まとめ
- 昭和62年 生活科設置の答申
- 平成元年学習指導要領改訂(平成4年度～生活科全面実施)

生活科の目標等

生活科が問題提起したこと

- 体験を重視する教育への積極的な対応
- 個性を重視する教育への積極的な対応
- 学校と家庭や地域との連携についての積極的な対応

目標・内容の設定及び時数、単位数

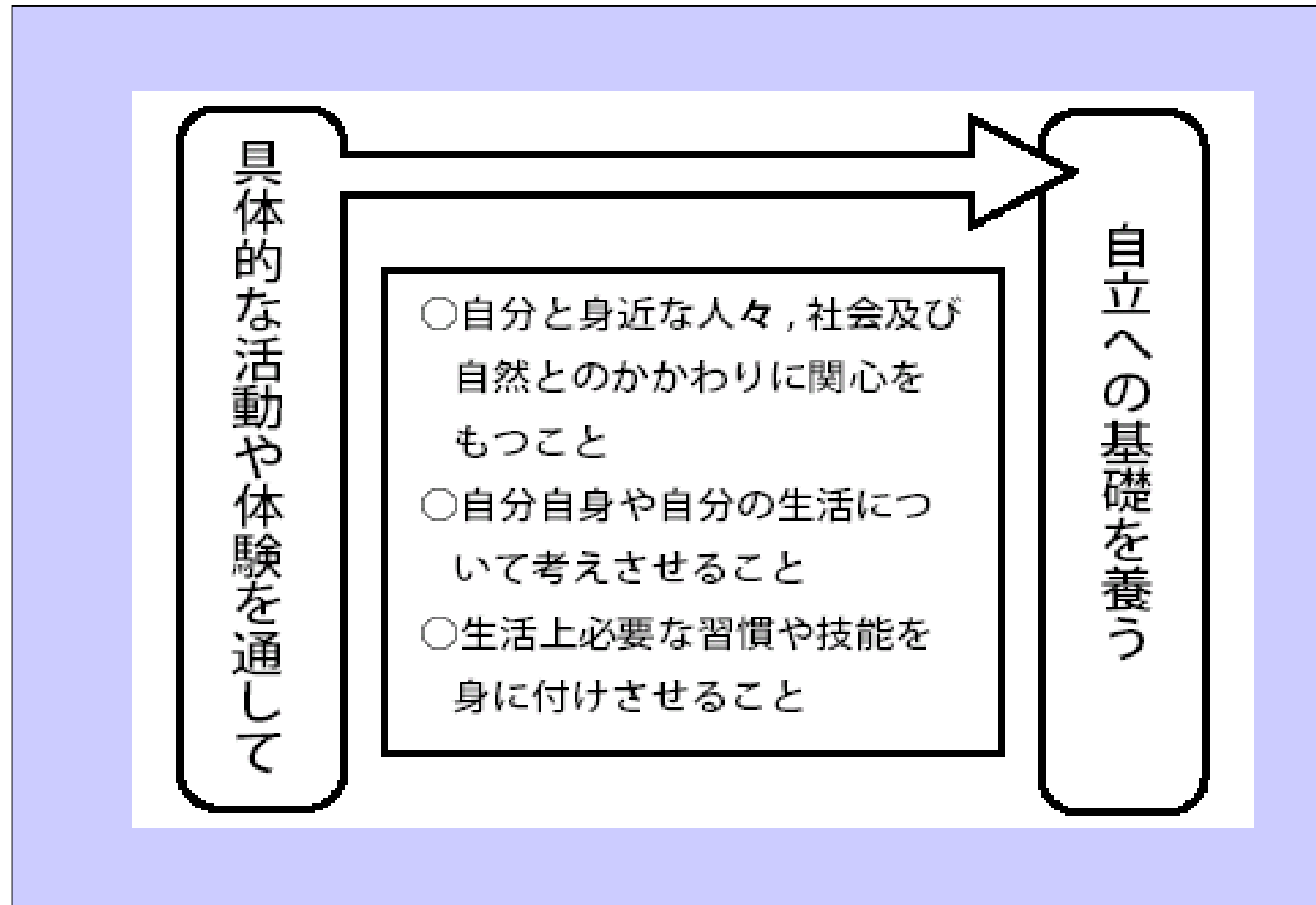
■教科目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

■時数、単位数

- ・小学校1、2年生：週3コマ

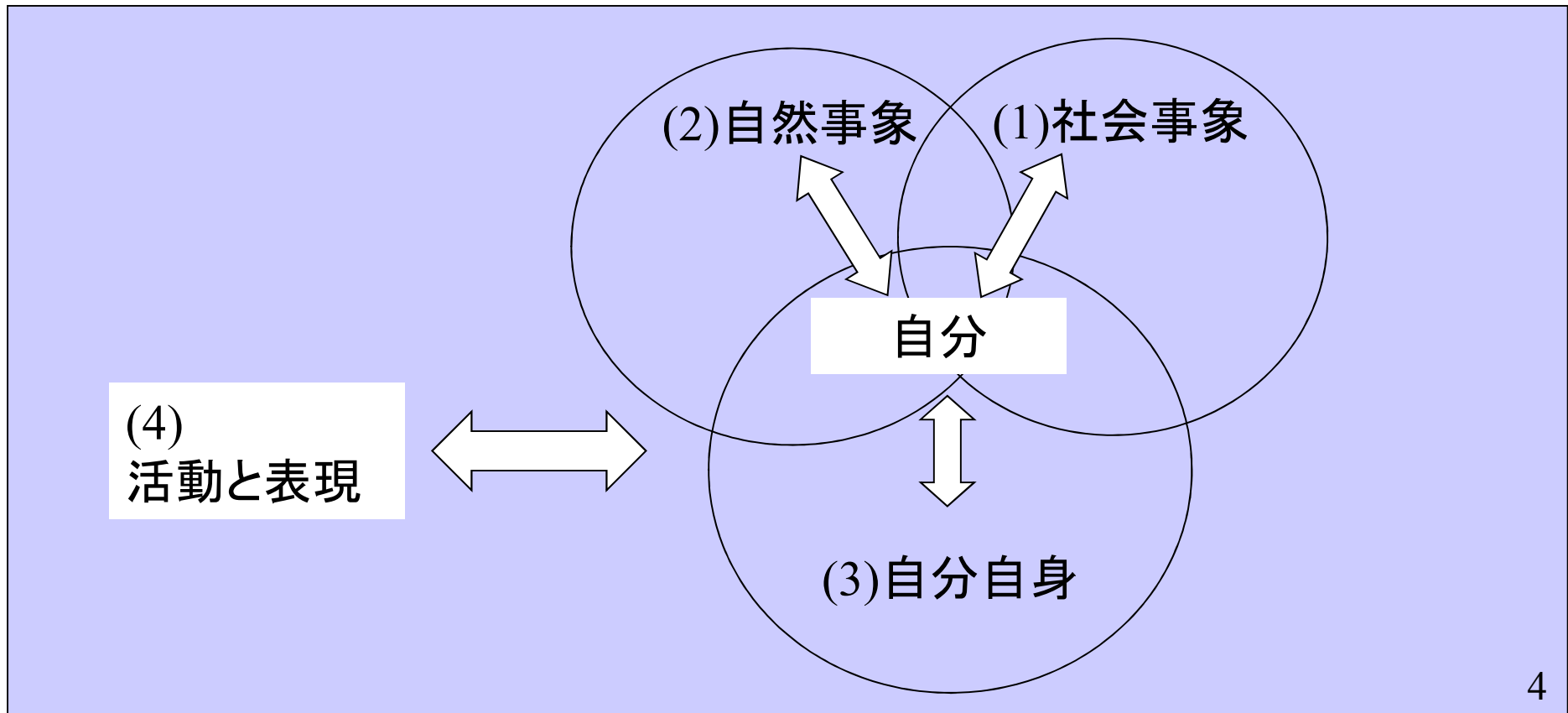
生活科の教科目標の構造



生活科の学年目標の項目

- (1) 自分と人や社会とのかかわり (2) 自分と自然とのかかわり
(3) 自分自身 (4) 生活科特有の学び方(活動と表現)

生活科の学年目標の構造



生活科の学年目標の構成要素

基本的な視点(教科の基本的な構成原理)

- (1)自分と人や社会とのかかわり
- (2)自分と自然とのかかわり
- (3)自分自身

	学習対象等	思考・認識等	能力・態度等
(1)	■身近な人々及び地域の様々な場所、公共物など(かかわりに関心をもつ)	■地域のよさに気付く ■自分の役割や行動の仕方を考える	■愛着をもつ ■安全で適切な行動ができる
(2)	■身近な動物や植物などの自然(かかわりに関心をもつ)	■自然のすばらしさに気付く	■自然を大切にする■遊びや生活を工夫する
(3)	■身近な人々、社会及び自然(かかわりを深める)	■自分のよさや可能性に気付く	■意欲と自信をもって生活する

生活科の内容構成の基本的な視点

- (1) 自分と人や社会とのかかわり
- (2) 自分と自然とのかかわり
- (3) 自分自身

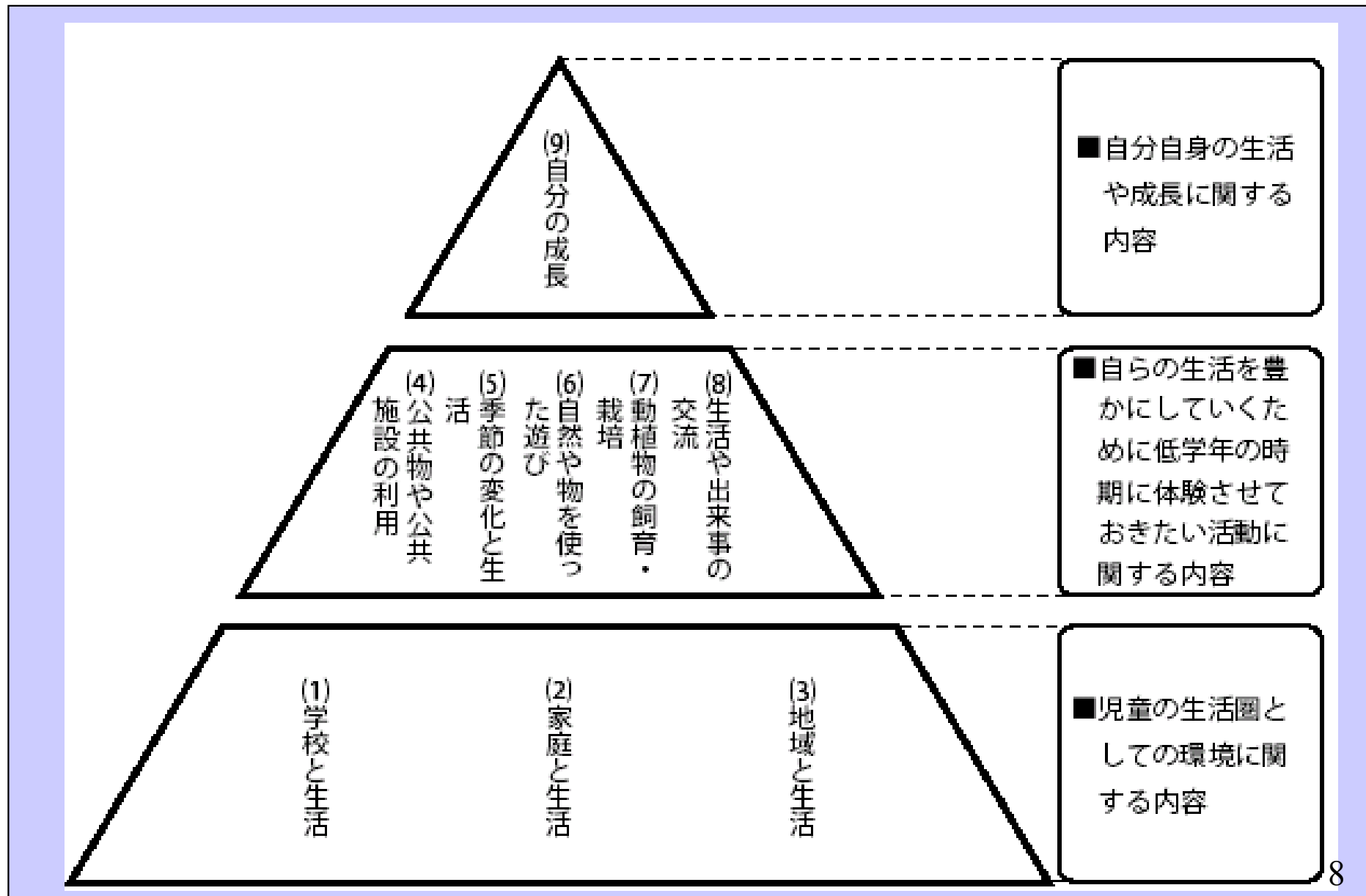
生活科の内容構成の具体的な視点

- | | |
|-----------------|--------------|
| ア 健康で安全な生活 | イ 身近な人々との接し方 |
| ウ 地域への愛着 | エ 公共の意識とマナー |
| オ 生産と消費 | カ 情報と交流 |
| キ 身近な自然との触れ合い | ク 時間と季節 |
| ケ 遊びの工夫 | コ 成長への喜び |
| サ 基本的な生活習慣や生活技能 | |

生活科の内容を構成する具体的な学習対象

- ①学校の施設
- ②学校で働く人
- ③友達
- ④通学路
- ⑤家族
- ⑥家庭
- ⑦地域で生活したり働いたりしている人
- ⑧公共物
- ⑨公共施設
- ⑩地域の行事・出来事
- ⑪身近な自然
- ⑫身近にある物
- ⑬動物
- ⑭植物
- ⑮自分のこと

現行学習指導要領における内容の階層性



(小学校学習指導要領解説 生活科編より)

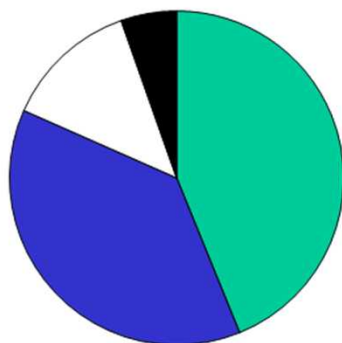
現行学習指導要領における内容の全体構成

階層	内容	学習対象・学習活動等	思考・認識等	能力・態度等
児童の生活圏としての環境に関する内容	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ■学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる ■通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもつ 		<ul style="list-style-type: none"> ■楽しく安心して遊びや生活ができる ■安全な登下校ができる
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考える 		<ul style="list-style-type: none"> ■自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができる
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ■自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる 		<ul style="list-style-type: none"> ■それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができる
自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容	(4)	<ul style="list-style-type: none"> ■公共物や公共施設を利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ■身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ■それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができる
	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ■身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする 	<ul style="list-style-type: none"> ■四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできる
	(6)	<ul style="list-style-type: none"> ■身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■その面白さや自然の不思議さに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ■みんなで遊びを楽しむことができる
	(7)	<ul style="list-style-type: none"> ■動物を飼ったり植物を育てたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ■それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ■生き物への親しみをもち、大切にすることができる
	(8)	<ul style="list-style-type: none"> ■自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■身近な人々とかかわることの楽しさが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ■進んで交流することができる
自分自身の生活や成長に関する内容	(9)	<ul style="list-style-type: none"> ■自分自身の成長を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ■これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる

生活科の受け止めや身に付けた力

○生活科の受け止めについて

1. 生活科の授業の好き嫌い



■大すき 44
■ややすき 38
□ややきらい 13
■きらい 5

2. 心に残る生活科の活動

小3:①飼育栽培②昔遊び③学校探検

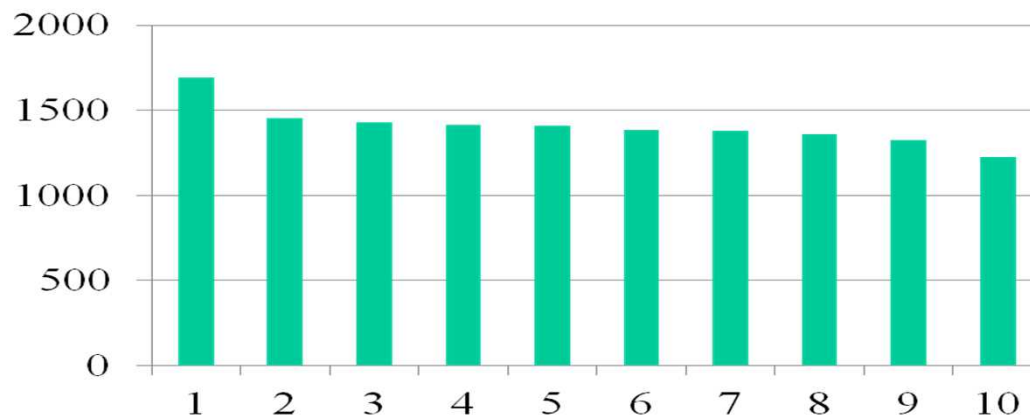
小6:①飼育栽培②学校探検③野原遊び

中3:①飼育栽培②野原遊び③学校探検

高3:①野原遊び②飼育栽培③収穫祭

○生活科で身に付いた力

1. 生き物に親しむ
2. 自分や友達のよさに気付く
3. みんなで協力する
4. 挑戦したり、粘り強く努力したりする
5. 健康、挨拶などの習慣が身に付く
6. 自然を大切にする
7. 感謝の気持ちをもつ
8. 夢を持って生活する
9. 学習したことを生活の中で使う
10. 公共施設が正しく利用できる



日本生活科・総合的学習教育学会「生活科で育った学力についての調査研究（平成16年 科研費）」

■調査対象：小学校3年生、6年生、中学校3年生、高等学校3年生

■調査人数：2544人

スタートカリキュラムの中核としての役割

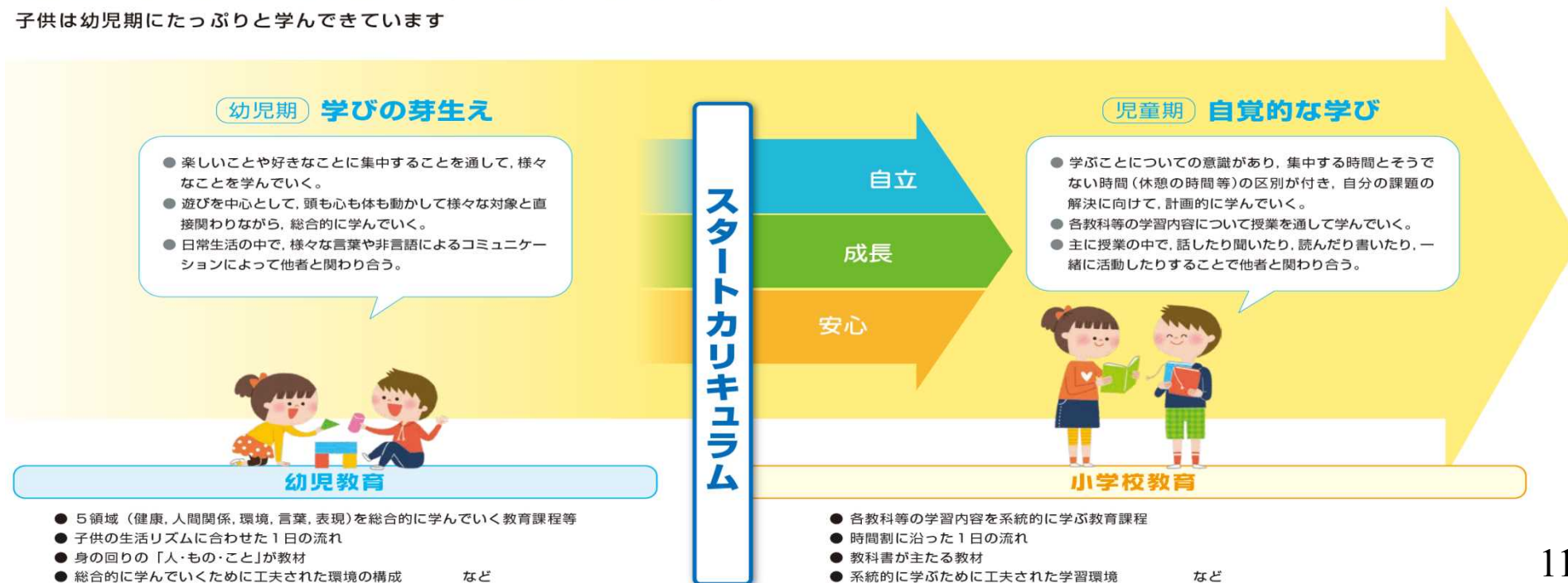
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)(平成22年11月11日)概要

- 幼児期と児童期の教育との接続を円滑に進めることは、児童の円滑な小学校生活のスタートにつながるのと同時に、いわゆる「小1プロブレム」の発生の防止につながる。
- 小学校入学時に幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムが生活科などを中心に進められており、生活科は他教科等との合科的・関連的な指導を行うことが期待されている。
- このような生活科などを中心としたスタートカリキュラムの取組は今後も進めていく必要があり、その取組を進めるに当たっては、小学校低学年の教育課程全体を視野に入れて行われることが重要。

「スタートカリキュラムスタートブック」(国立教育政策研究所,平成27年1月)より

ゼロからのスタートじゃない!

子供は幼児期にたっぷりと学んできています



幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）

幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿（参考例）

（イ）健康な心と体

- （例）・体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたりして、主体的に取り組む。
- ・いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
 - ・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にしている気持ちをもつ。
 - ・衣服の着脱、食事、排せつなどの生活に必要な活動の必要性に気付き、自分でする。
 - ・集団での生活の流れなどを予測して、準備や片付けも含め、自分たちの活動に、見通しをもって取り組む。

（ロ）自立心

- （例）・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う。
- ・自分のことは自分で言い、自分でできないことは教職員や友達の助けを借りて、自分で行う。
 - ・いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。

（ハ）協同性

- （例）・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- ・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、わかり合う。
 - ・クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさをわかり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
 - ・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

（ニ）道徳性の芽生え

- （例）・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。
- ・友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する。
 - ・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。

（ホ）規範意識の芽生え

- （例）・クラスのみならず心地よく過ごしたり、より遊びを楽しくしたりするためのきまりがあることが分かり、守ろうとする。
- ・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。
 - ・友達と折り合いをつけ、自分の気持ちを調整する。

（ヘ）いろいろな人とかかわり

- （例）・小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちを持って接する。
- ・親や祖父母など家族を大切にしようとする気持ちをもつ。
 - ・関係の深い人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。
 - ・四季折々の地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に一層親しみをを感じる。

(ト) 思考力の芽生え

- (例)・物との多様なかかわりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする。
・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使う。

(チ) 自然とのかかわり

- (例)・自然に出会い、感動する体験を通じて、自然の大きさや不思議さを感じ、畏敬の念をもつ。
・水や氷、日なたや日陰など、同じものでも季節により変化するものがあることを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。
・季節の草花や木の実などの自然の素材や、風、氷などの自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりする。

(リ) 生命尊重、公共心等

- (例)・身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さ、生命の尊さに気付き、感動したり、いたわったり、大切にしたりする。
・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
・公共の施設を訪問したり、利用したりして、自分にとって関係の深い場であることが分かる。
・様々な行事を通じて国旗に親しむ。

(ヌ) 数量・図形、文字等への関心・感覚

- (例)・生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心を持ち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。
・文字や様々な標識が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気付き、読んだり、書いたり、使ったりする。

(ル) 言葉による伝え合い

- (例)・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。
・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。
・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。

(ヲ) 豊かな感性と表現

- (例)・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。
・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。
・友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。

スタートカリキュラムのイメージ図(案)

小学校低学年

スタートカリキュラム

スタートカリキュラムの実施により、幼児期の学びからの円滑な接続が図られ、児童が安心して小学校生活をスタートすることができる。また、幼児期からの学びを生かした指導が可能となり、児童が意欲や自信をもって活動し、6年間を通してよりよく成長していくことが期待される。



幼児教育

幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公共心等	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

5領域

健康

人間
関係

環境

言葉

表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。教育課程部会幼児教育部会において、本WG等の議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議。

生活科の成果と課題

成果

- 生活科の目標である、身近な人々や社会、自然と直接関わる授業や、自分自身の生活について考えさせる授業の実践が着実に進められている。

課題

- 低学年における他教科等や中学年以降の各教科において育成される資質・能力との関係性を明確化する。
- スタートカリキュラムの中核となる教科として、幼児教育との円滑な接続の観点から更なる改善・充実を図る。